

# 店頭回収 もっと理解しよう！ 広げよう！ 前編

ごみ・環境ビジョン 21 運営委員 多田 眞



買い物に行くときはマイバッグに食品トレイやペットボトルなどの容器包装を詰め込んで出かけ、スーパーの店頭回収を利用する…これがごみかん会員さんの買い物スタイルかと思えます。ペットボトルはあまり出ないと思いますが、白色トレイと透明トレイはどうしてもたまってしまいます。ちなみに、みなさんの馴染みのスーパーでは「透明トレイ」も店頭回収していますか？

私が暮らす東京都府中市では、主だった21軒のスーパーのうち9軒が透明トレイも店頭回収しています。ごみかん運営委員会では「そうすると、ちょっと遠くても透明トレイも回収しているスーパーを利用することになるよ」「うちの近くには透明トレイを回収しているスーパーがないなあ」と、主婦&主夫で盛り上がりました。

そんなことから、改めて「店頭回収」について今一度、整理してみたいと思います。

## ● 店頭回収の始まり

スーパーマーケット、大型ショッピングセンター、コンビニでの店頭回収の扱い品目は、ペットボトル、白色トレイ、有色トレイ、透明トレイ、牛乳パック、飲料缶、古紙（ダンボール、雑紙、本、パンフレット）などです。

小売事業者による店頭回収は、牛乳パックを皮切りに容器包装リサイクル法が成立する以前の80年代半ばから始まりました。住民の意識向上や環境教育の観点からは有益なものであると認識されています。

## ● リサイクルコストの低減とサーキュラーエコノミー（循環経済）

店頭回収によるリサイクルコスト中で輸送費は大きな比重を占めますので、各社、輸送費の削減にさまざまな工夫をしています。

大型スーパーでは店頭で回収した資源物を物流センターまで持ち帰る際に、納品の帰り車に載せたり、ルート回収で運送効率を上げたりすることで、輸送費用を抑えています。発生元で圧縮減容も行えば、従来よりCO<sub>2</sub>の排出量も1/75になるという試算もあります。

物流センターの中に中間処理（破碎・減容・圧縮）まで行える設備を持つことで、回収した容器包装類を再生プラスチックの原料や再生紙の原料として扱えるようになり、リサイクルの効率を上げています。

トムラジャパンのペットボトル回収機を設置した店舗では、破碎・減容が店頭のできることで、原料として移送

することができ、ボトル to ボトルのリサイクル（マテリアルリサイクル）を可能としています。店舗にとってリサイクルを促進するために重要なことは、リサイクルコストの削減と中間処理後の品質の良さ。原料として再生材利用業者からの買取価格をいかに上げるかにかかっています。

## ● 店頭回収したものは産業廃棄物扱い

店頭回収されたものの廃棄物処理法上の位置について、環境省から各自治体に対して2016年1月8日付で、条件付きだが産業廃棄物扱いとする旨の通知がありました。

また、これらを廃棄物ではなくリサイクルのための再生材（原料、有価物）とすることで都道府県知事の許可を取得する必要がなくなり全国で統一された効率的なリサイクルが可能となっています。

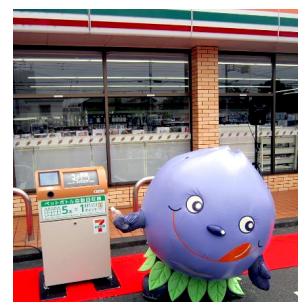
自治体の目的は、リサイクル費用（＝税金）の削減、SDGsのサステナブル（持続可能）なリサイクルの実現。店舗にとっても再生材原料を増やすほど資源保護となり、サーキュラーエコノミーが可能となるので、取り組みのインセンティブとなります。

## ● コンビニでの店頭回収

セブン-イレブンでは、2017年より店頭への『ペットボトル回収機』の設置を開始し、現在東京都、埼玉県、茨城県、沖縄県内の約369店舗（2020年6月末）で稼働しています。

東京・多摩地域では、東大和市と小平市がそれぞれ市内のセブン-イレブン15店舗と19店舗にトムラのペットボトル回収機を設置しています。

また、コカ・コーラシステムは100%リサイクル素材のペットボトル入りミネラルウォーター「い・ろ・は・す」を2020年3月に発売しました。2030年までに「ボトル to ボトル」の割合を90%にまで高め、全ての自社製品のPETボトルの原料を100%サステナブル素材（リサイクルPET樹脂または植物由来ペット樹脂など）に切り替えることなどを柱とした新たな環境目標を公表しています。



小平市内のセブン-イレブンの店頭で設置された小型のコンビニ用回収機と、市のユルキャラ「ぶるべー」